

■（２７１）驚きの「計画運休」 報道にもつながる情報伝達の大切さ

台風２４号の強風が収まった夜明け前、スポーツの朝練のためにＪＲ駅に向かった大学生の愚息があわてて妻に電話してきました。「電車が動いていない」。前夜の「計画運休」は承知でした。そこまで備えたから、始発から通常ダイヤと思い込んでいたようです。

そもそも鉄道が台風に備えて「計画運休」するとは驚きでした。関西ではすでに経験済みだったようですが、首都圏では初めてです。大雨や強風で電車で長時間、缶詰になるのは勘弁です。でも、嵐の前の静けさのような日中に、「夜は運休します」と言われてもピンと来ませんでした。すでに朝から遠くに出かけていた人はどうしたのでしょうか。遊園地などなら場内アナウンスはあったでしょう。外で携帯やスマホを常にチェックしている人も気づいたでしょう。でも、誰もがそうとは限りません。帰路につこうとして駅で驚いたという人もいたでしょう。ＪＲ東日本も「発表のタイミングが今後の課題」としました。

私たち報道も同じです。新聞やネットに流したから人々に伝わっていると思い込んでいないか。必要な時に必要とする人に情報を届けられているか。仕事を再確認です。（山）